

《この人》

長年、北海道開発局で社会資本整備の最前線に立ってきただけあり、道内民への貢献に

5月の支部長就任以来、「技術の向上と品質確保を通じて社会に貢献していこう」と支部会員53社に呼び掛けている。「コンサルは、単に構造物を設計するだけでなく、地域づくり、ひいては国づくりに責任を持っているという自覚が必要。公共事業であろうと民間事業であろうと同じだ。それが地域社会や道民、国民への貢献につながると思う」

国づくりに責任持つ自覚を

骨で、「国のかたち」を決める重要なインフラだ。だから日常使う生活道路などと区別して考えなければならぬ

たのはインフラがある程度整備されたから。利便性を下支えしているインフラの重要性を知ってもらってPR活動に力を入れ

海道出身、63歳。



建設コンサルタンツ協会
北海道支部長
ひらの みちお
平野 道夫さん

ンフラの立ち遅れには敏感だ。「道路も鉄道も高速交通体系が未完のまま。高速道路や新幹線は、物流や人的交流を支える背

しかし、道民や国民がそのことを必ずしも理解しているとは言えないのが現状。「社会経済や個人生活がここまで向上し

ていきたい。その一環として身近な施設を取り上げたパンフレットを作成して、小中学校などの教育機関に配布している」

1970年北大(土木)

卒後、北海道開発庁(現国土交通省)入庁。石狩川開発建設部長、開発局建設部長などを経て、2001年から03年まで開発局長としてさい配をふるった。07年にドーコン入社。ことし5月に同社社長に就任した。趣味はウォーキング。東京勤務のころは毎日、四谷から霞が関まで徒歩通勤したという健脚の持ち主。北